



岩松小学校だより



学校だより 第5号

令和8年5月1日発行

発行者 校長 真子靖弘

自律の芽吹き ー雨の日の放送にみる6年生の確かな判断力ー

現在、最高学年である6年生を中心に「あいさつ運動」が活気を見せています。「語先後礼(言葉を先にお辞儀を後に)」を意識した丁寧なあいさつが交わされ、校舎には清々しい一日の始まりが広がっています。



ある雷雨の朝のことでした。「今日はどう活動するのだろうか」と見守っていたところ、校内に次のような放送が流れました。

「今日は雨が強く、雷の心配もあります。ですので、今朝のあいさつ運動は、児童玄関の中で行います」

この機転には驚かされました。自分たちで状況を判断し、安全を確保しながらも「自分たちの役割」を果たそうとする。そこには、まさに本校が大切にしている「自律(自分で考え、判断し、行動する)」の姿がありました。



また、お昼の放送も進化しています。当初は前年度の踏襲でしたが、4月下旬からは自分たちで考えたオリジナルの内容が登場し、全校児童が耳を傾け、愉しみながら給食を味わっています。

自分たちの手で学校をより良くしようとする6年生の挑戦が、今後も楽しみでなりません。

異学年の輪の中で ー遊びを通して培う非認知能力ー

4/24(金)、全校児童が学年を混ぜて活動する「わんぱくタイム」がスタートしました。一班15名ほどの少人数グループで、1年生から6年生までが手を取り合って活動します。



第一回目は、絆づくりの第一歩。班のメンバーを知る自己紹介や、自分たちの目標となる合言葉決めを行いました。上級生が下級生を優しくリードする姿は、早くも頼もしい「お兄さん、お姉さん」そのものでした。今後はこの班で、心ゆくまで遊び、時に協力し合いながら活動を重ねていきます。その過程で培われる「相手を認める心」や「協力してやり遂げる力」を大切に育んでまいります。

「問い」を止めない ー日々の思考の積み重ねを大切にー

先日、佐賀県立美術館で開催された「MINIATURE LIFE 展2」を鑑賞してきました。ブロッコリーを木に、ホッチキスを椅子に見立てる田中達也さんの独創的な世界観には、ただ圧倒されるばかりでした。

特に心に残ったのが、田中さんの「アイデアを考えるのは筋トレに近い」という言葉です。これは教育や仕事の現場にも通じます。目の前の課題をどう解決し、より良くしていくか。その答えは、突然降ってくるものではありません。日頃から「別の見方はないか」とアンテナを張り、考え続ける習慣があつてこそ、実行力のあるアイデアが生まれます。筋トレと同様、思考もサボれば衰え、鍛えれば柔軟になります。

「見立て」とは、固定観念を外して本質を見つめる作業です。私たち教職員も、日々の「思考の筋トレ」を怠らず、柔軟な視点で子どもたちや学校の課題に向き合っていきたいと感じました。日常を少し違う角度から眺めてみる。そんなワクワクする視点を子どもたちとも共有していければと思います。



至高の伝統 二十六世観世宗家、降臨決定！

嬉しいお知らせが届きました。昨年度の「ねむり姫」公演に引き続き、今年度も文化庁主催の「文化芸術鑑賞・体験推進事業」への申請が認められました。

今回、本校に足を運んでくださるのは、日本を代表する伝統芸能の至宝、二十六世観世宗家・観世清和(かんぜ きよかず)氏です。清和氏は、室町時代に能を大成させた観阿弥・世阿弥の直系の子孫であり、実に七百年の伝統を背負う最高峰の能楽師です。教科書の中で習った歴史が、目の前の舞台として立ち現れる。そんな奇跡のような体験が本校で実現します。

日程は11月開催で調整中です(既に2年先まで土日は公演予定が入っている)。詳細が決まり次第改めてご案内いたしますが、本公演は保護者の皆様、地域の皆様もご参加いただけます。世界が認める日本の美、その神髄に触れられる日をどうぞお楽しみに！